

2010年3月期 第2四半期 決算概要

2009年10月28日

NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 山口 純史

<http://www.necel.com/ir/ja/>

I. 2010年3月期 第2四半期 業績概要

- フリー・キャッシュ・フローが黒字転換
- 半導体売上高は、想定を上回る実績
- 営業損益は改善するも、300ミリ稼働悪化等で想定比未達

II. 2010年3月期 業績見通し

- 下期および通期の業績見通しを下方修正
- 生産ライン統廃合に関する追加施策を決定
(福岡後工程、関西5インチ)

I. 2010年3月期 第2四半期 業績概要

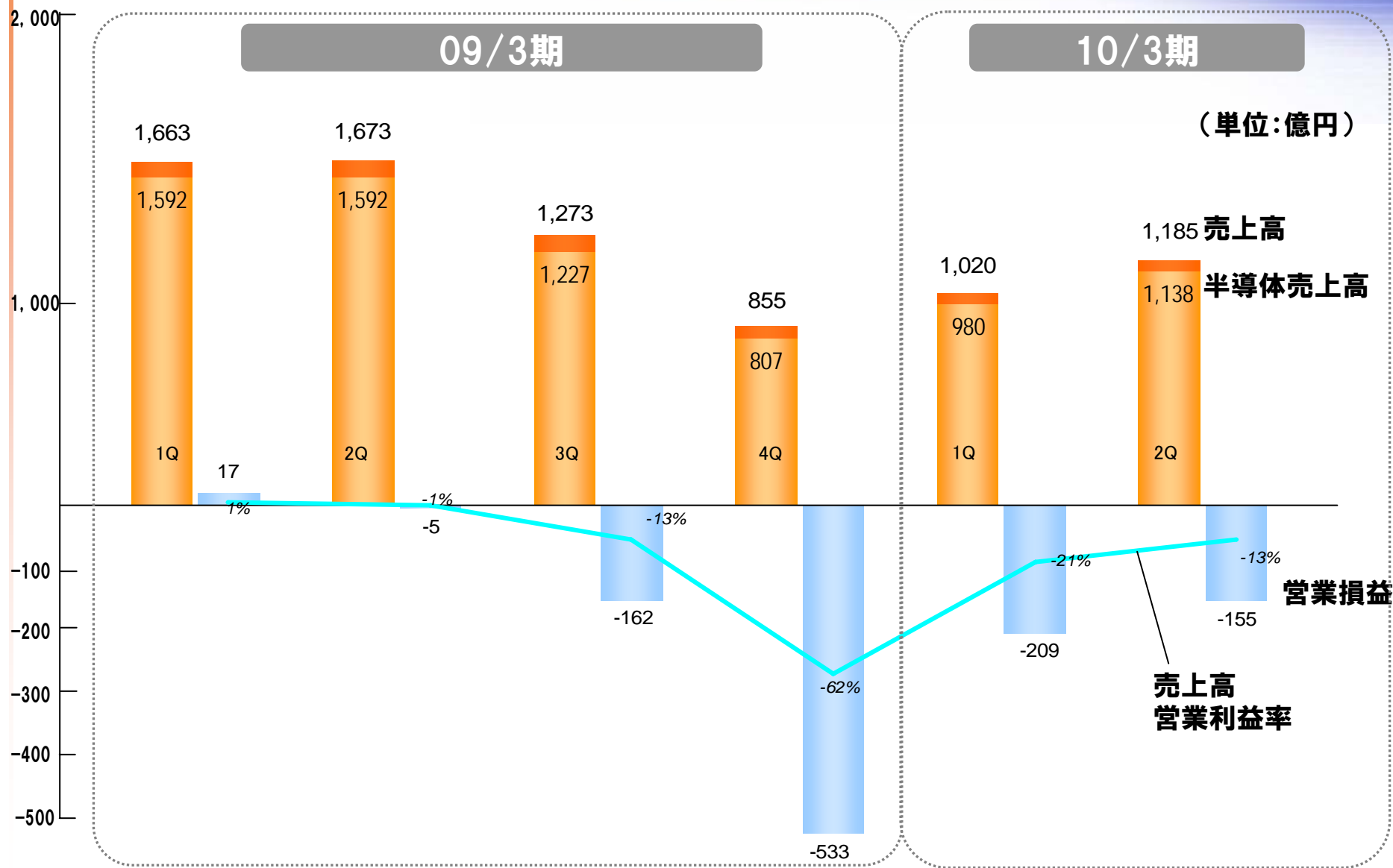
II. 2010年3月期 業績見通し

業績サマリ

| (単位:億円) | 10/3期 | | | | |
|--------------------|----------|----------|----------|--------|------|
| | 1Q, 6/30 | 2Q, 9/30 | 上期, 9/30 | | |
| | 実績 | 実績 | 実績 | 前年同期比 | 前下期比 |
| 売上高 | 1,020 | 1,185 | 2,205 | △1,131 | +76 |
| 半導体売上高 | 980 | 1,138 | 2,118 | △1,065 | +84 |
| 営業損益 | △209 | △155 | △364 | △376 | +332 |
| 税前提損益 | △208 | △167 | △375 | △375 | +518 |
| 当期純損益 (当社株主に帰属) | △207 | △174 | △381 | △362 | +426 |
| (為替レート) | | | | | |
| 1US\$= | 98円 | 95円 | 97円 | 8円高 | 1円安 |
| 1ユーロ= | 130円 | 135円 | 132円 | 31円高 | 3円安 |

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

キャッシュ・フロー

第2四半期のフリー・キャッシュ・フローは黒字に転換

| (単位：億円) | 09/3期 | 10/3期 | | |
|----------------------|-------|-------|-----|------|
| | 上期 | 1Q | 2Q | 上期 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 188 | △247 | 107 | △140 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △234 | △174 | △69 | △242 |
| フリー・キャッシュ・フロー | △45 | △421 | 38 | △382 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △23 | +194 | +72 | +266 |

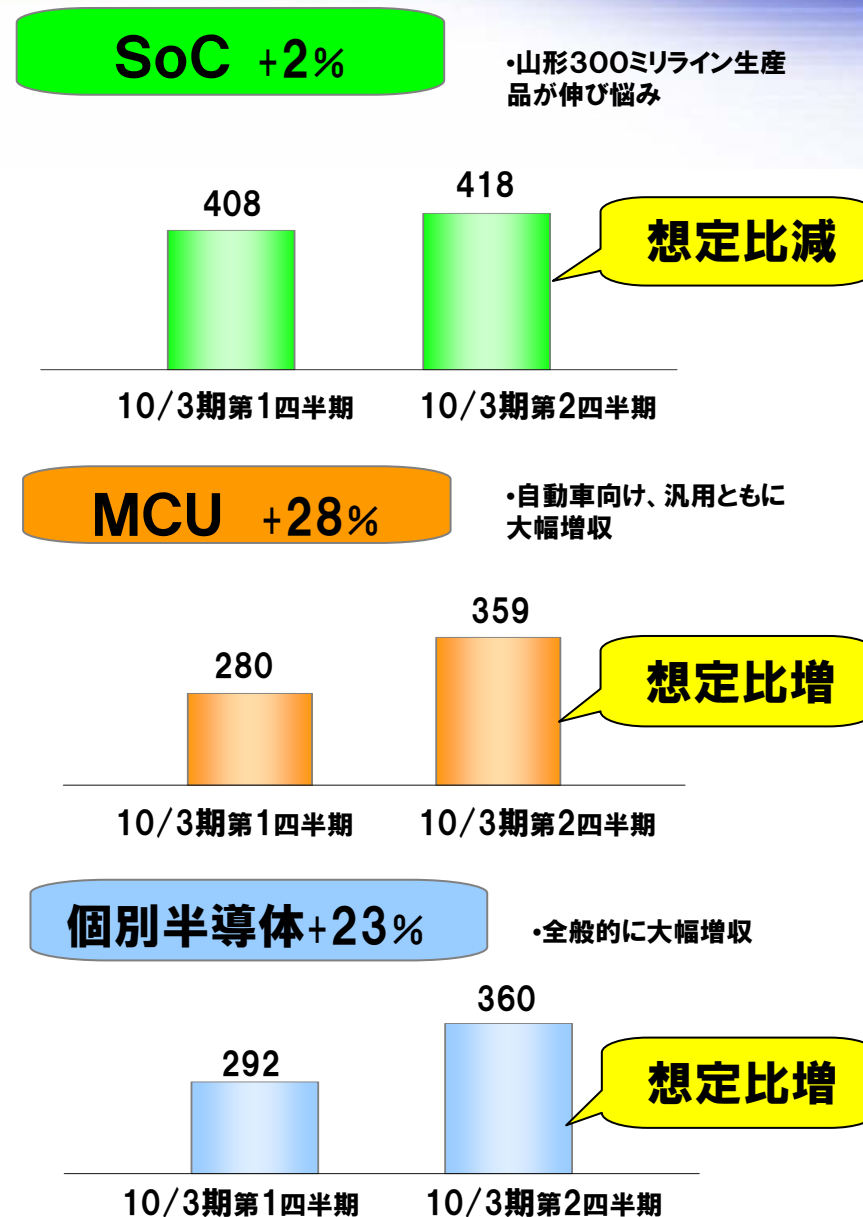
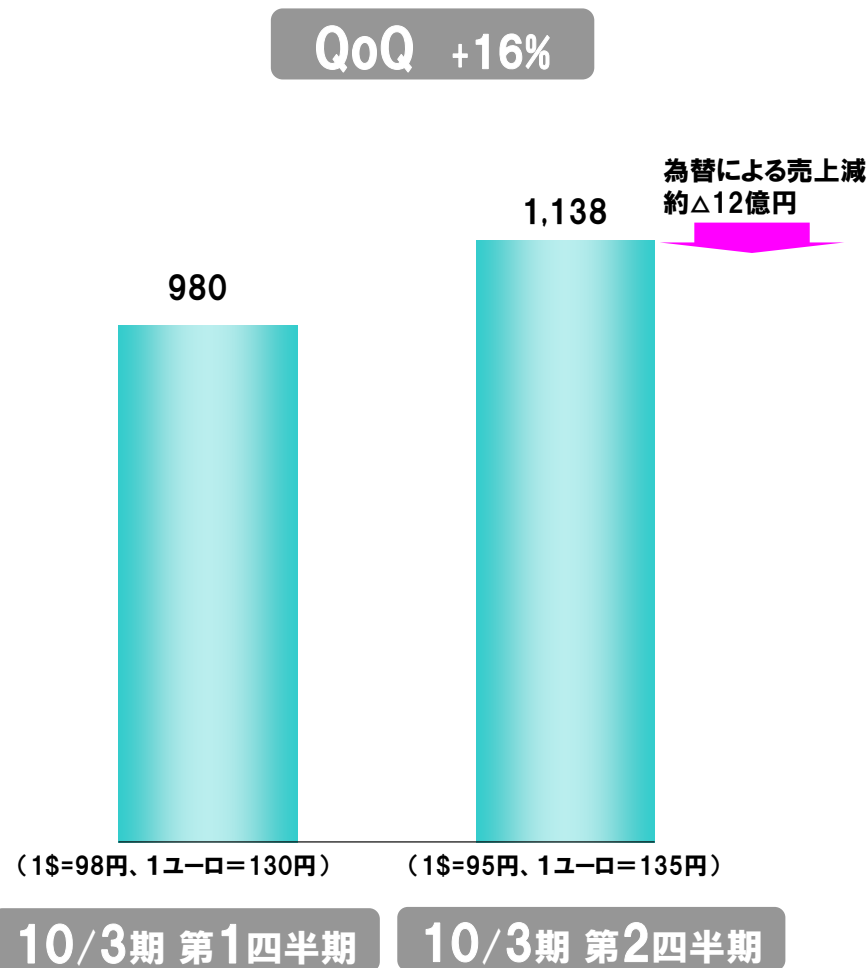
バランスシート

NEC

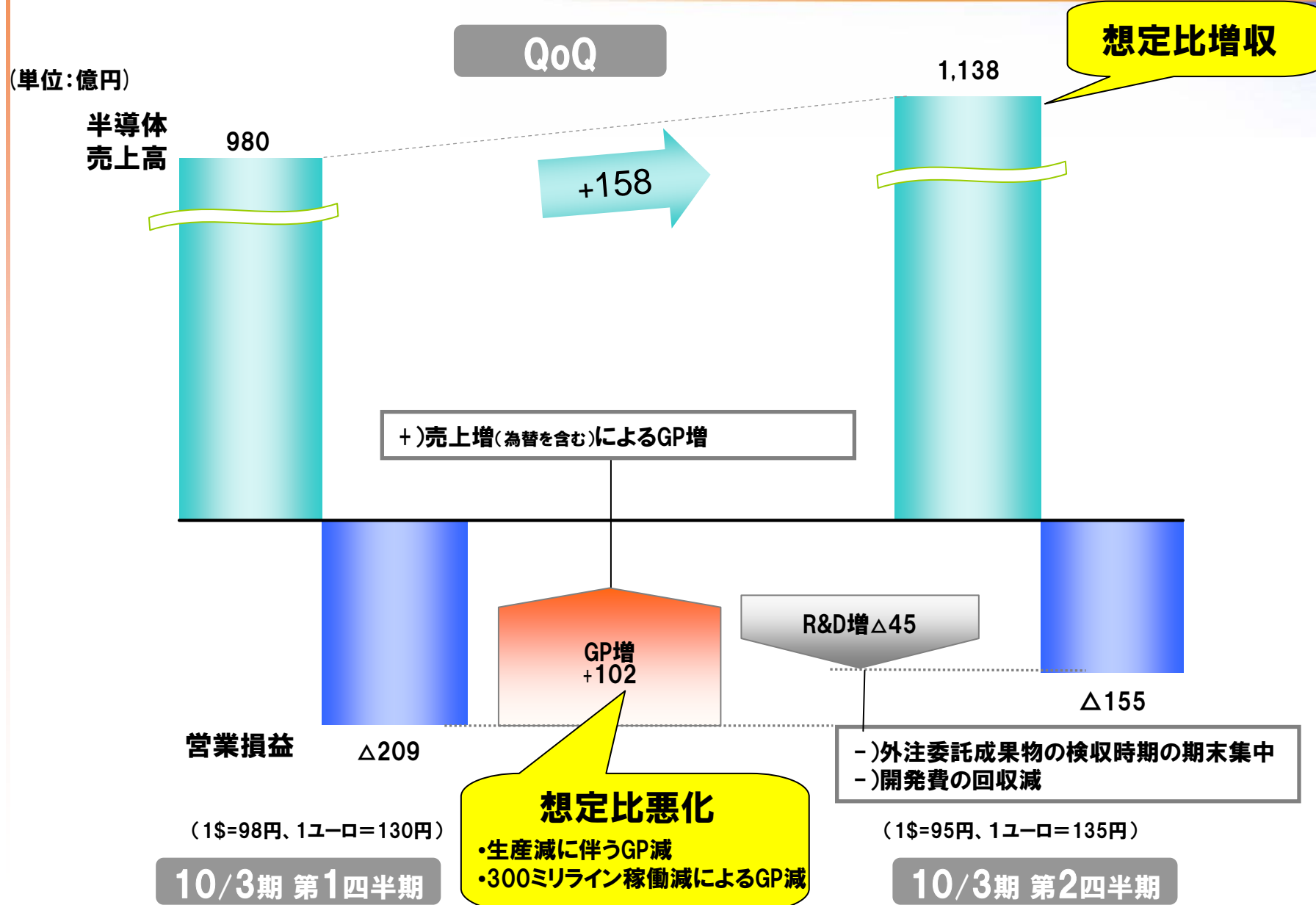
| (単位:億円) | | 08/9 | 09/6 | 09/9 |
|-------------------|------------|--------------|--------------|--------------|
| 総資産 | 現金および現金同等物 | 1,580 | 795 | 895 |
| | 受取手形および売掛金 | 953 | 660 | 671 |
| | たな卸資産 | 820 | 584 | 545 |
| | 有形固定資産 | 2,570 | 2,417 | 2,304 |
| | その他の資産 | 297 | 262 | 241 |
| 総資産 | | 6,220 | 4,718 | 4,655 |
| 負債 | 支払手形および買掛金 | 1,119 | 720 | 786 |
| | 社債および借入金 | 1,171 | 1,360 | 1,437 |
| | その他の負債 | 1,629 | 1,514 | 1,509 |
| 負債 | | 3,920 | 3,594 | 3,732 |
| 株主資本 | | 2,248 | 1,083 | 885 |
| 非支配持分 | | 52 | 40 | 38 |
| 負債および純資産合計 | | 6,220 | 4,718 | 4,655 |
| D/Eレシオ(グロス) | | 0.52倍 | 1.26倍 | 1.62倍 |
| 株主資本比率 | | 36% | 23% | 19% |

第2四半期(7-9月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

(単位:億円)

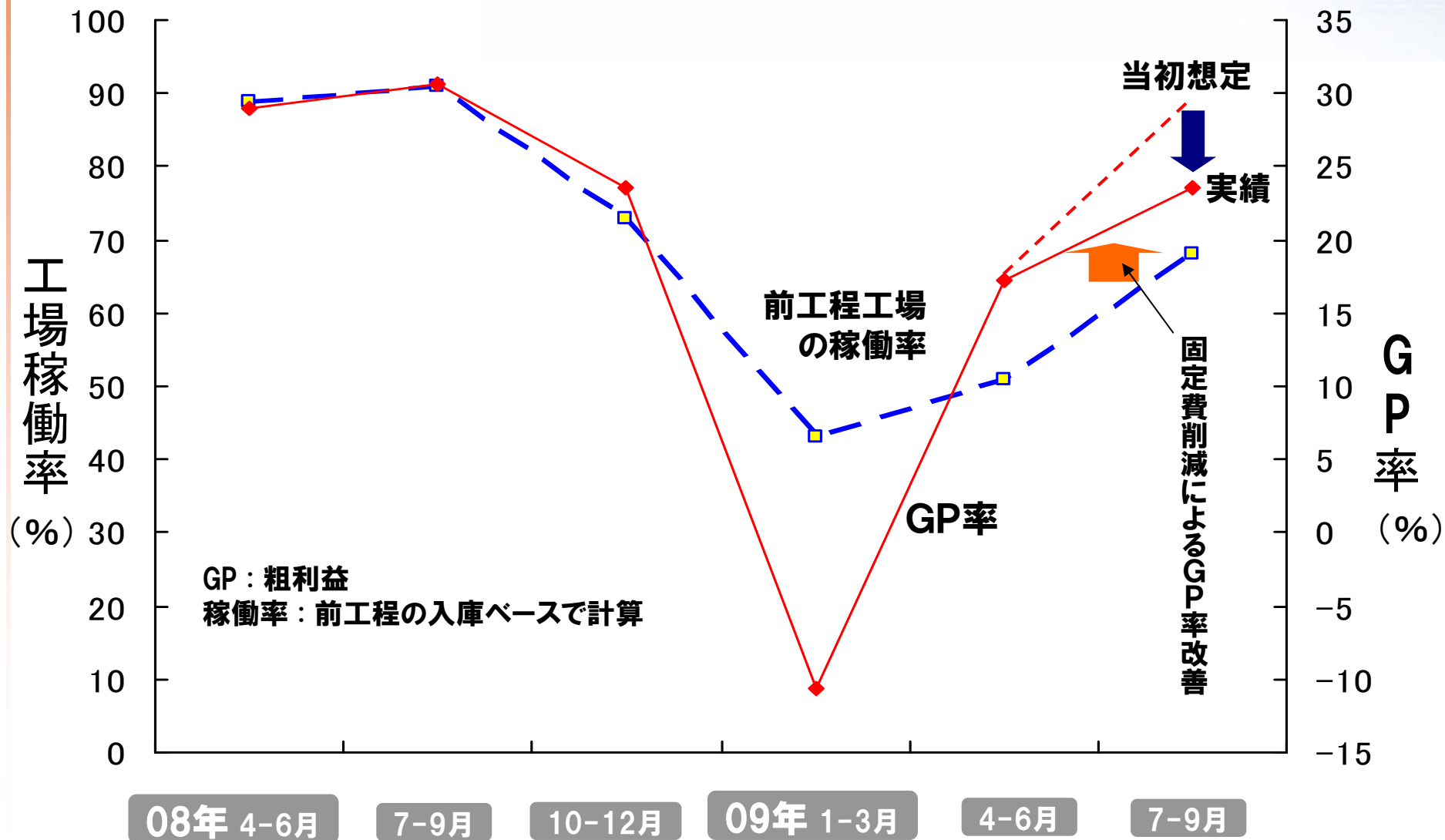


第2四半期 営業損益の主な増減要因



当社全体のGP率と稼働率の改善状況

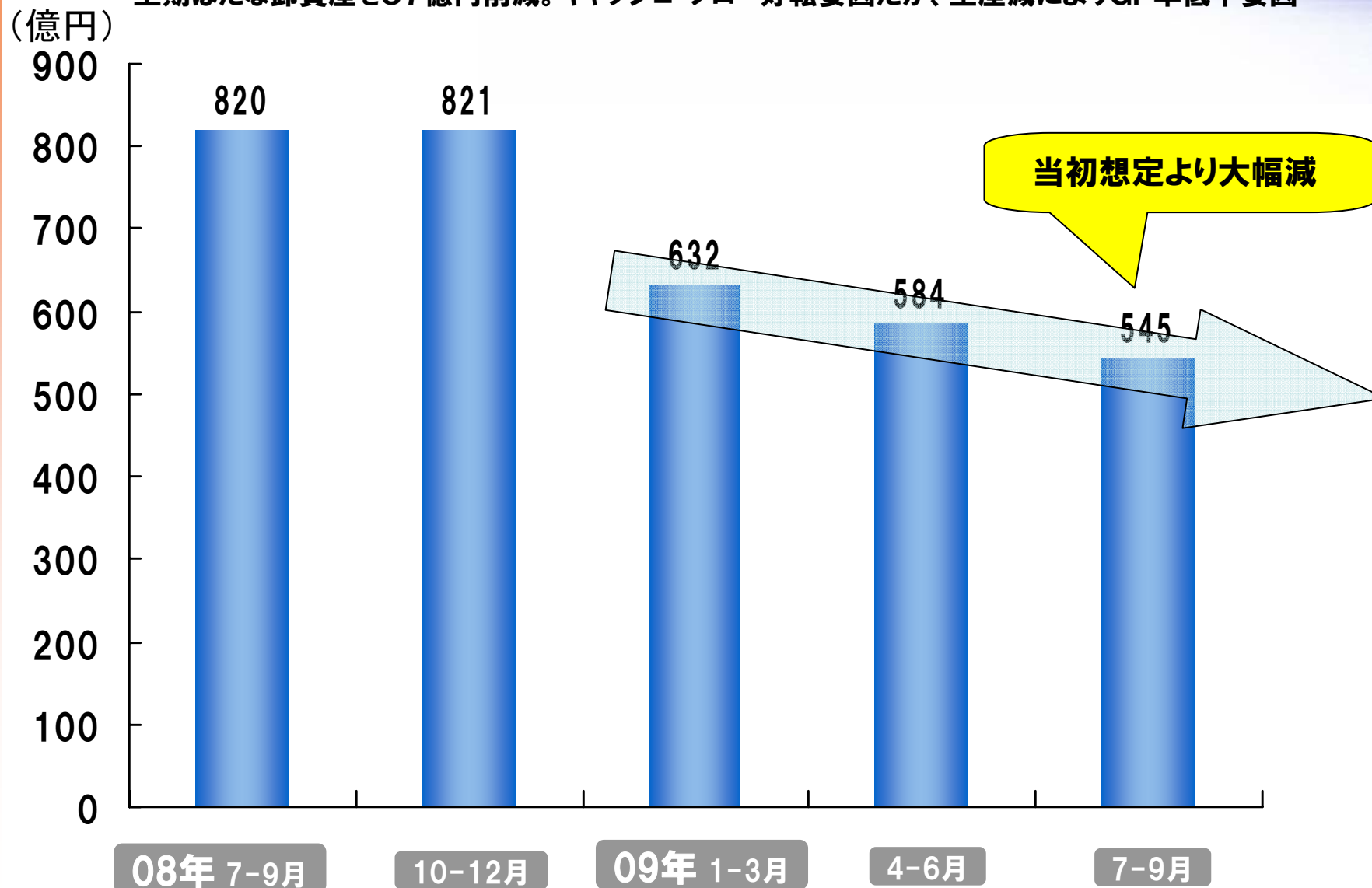
固定費削減で稼働率以上にGP率回復だが、たな卸減と300ミリ工場稼働減で想定比未達



四半期別の期末たな卸資産残高の変化

NEC

上期はたな卸資産を87億円削減。キャッシュ・フロー好転要因だが、生産減によりGP率低下要因



I. 2010年3月期 第2四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

10/3期 業績予想

下期/通期の業績見通しを下方修正

| (単位:億円) | 09/3期 | 10/3期 | | | | | |
|--------------------|-------|-------|-------------------------|--------|-------------------------|-------|-------------------------|
| | 年間 | 上期 | | 下期 | | 通期 | |
| | 実績 | 実績 | 期初想定 (5月11日) との差異 | 今回予想 | 期初想定 (5月11日) との差異 | 今回予想 | 期初想定 (5月11日) との差異 |
| 売上高 | 5,465 | 2,205 | +55 | 約2,400 | △約250 | 4,600 | △200 |
| 半導体売上高 | 5,217 | 2,118 | +68 | 約2,320 | △約230 | 4,450 | △150 |
| 営業損益 | △684 | △364 | △114 | △約100 | △約350 | △465 | △465 |
| 税前損益 | △893 | △375 | △110 | △約160 | △約350 | △535 | △460 |
| 当期純損益 (当社株主に帰属) | △826 | △381 | △111 | △約170 | △約350 | △550 | △460 |
| (為替レート) | | | | | | | |
| 1US\$= | 101円 | 97円 | 2円安 | 90円 | 5円高 | 90円 | 5円高 |
| 1Euro= | 146円 | 132円 | 7円安 | 130円 | 5円安 | 130円 | 5円安 |

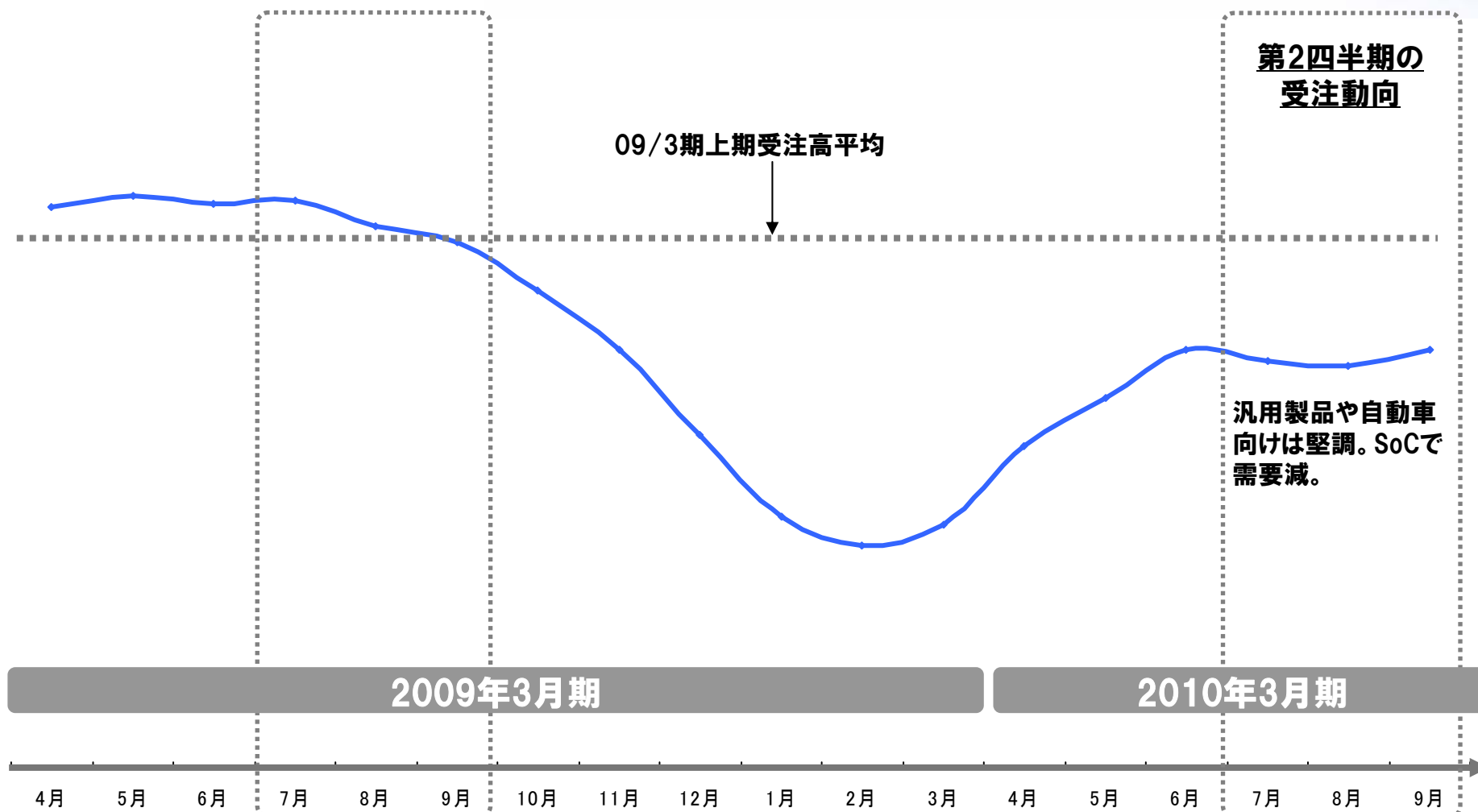
注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

注3:予想値は2009年10月28日現在

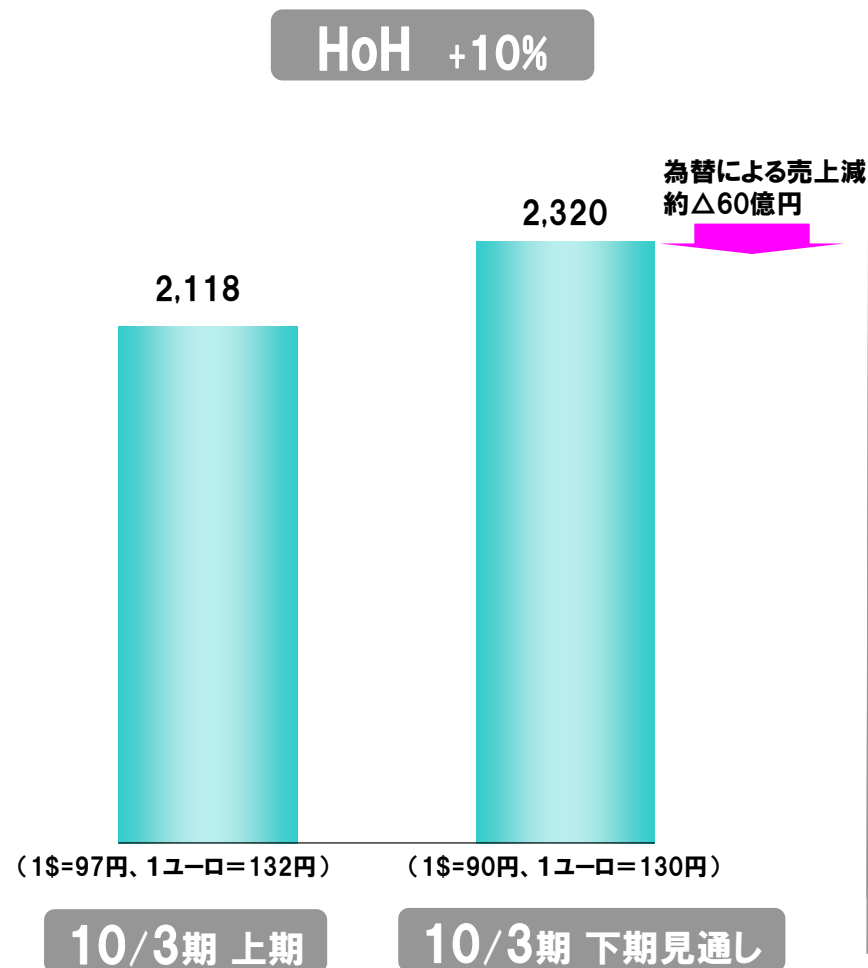
半導体受注高の推移

受注（3ヶ月移動平均）



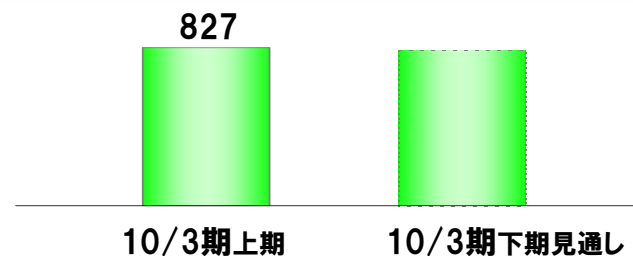
下期半導体売上高の見通し

(単位:億円)



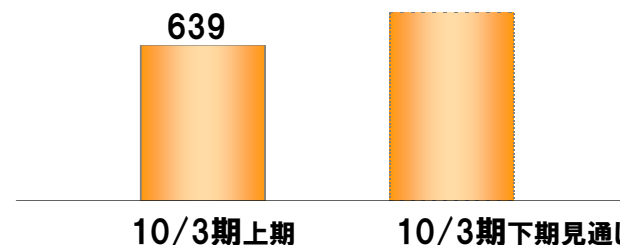
SoC 約△5%

民生機器関連を中心に減収



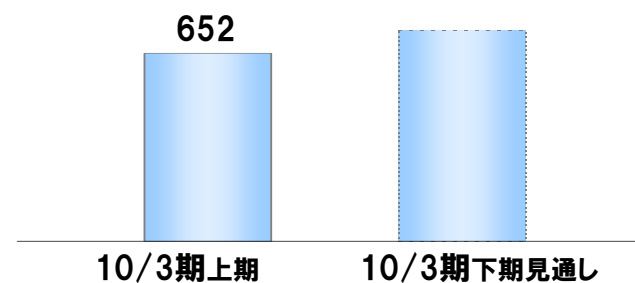
MCU 約+20%

自動車向け、汎用ともに増収



個別半導体 約+10%

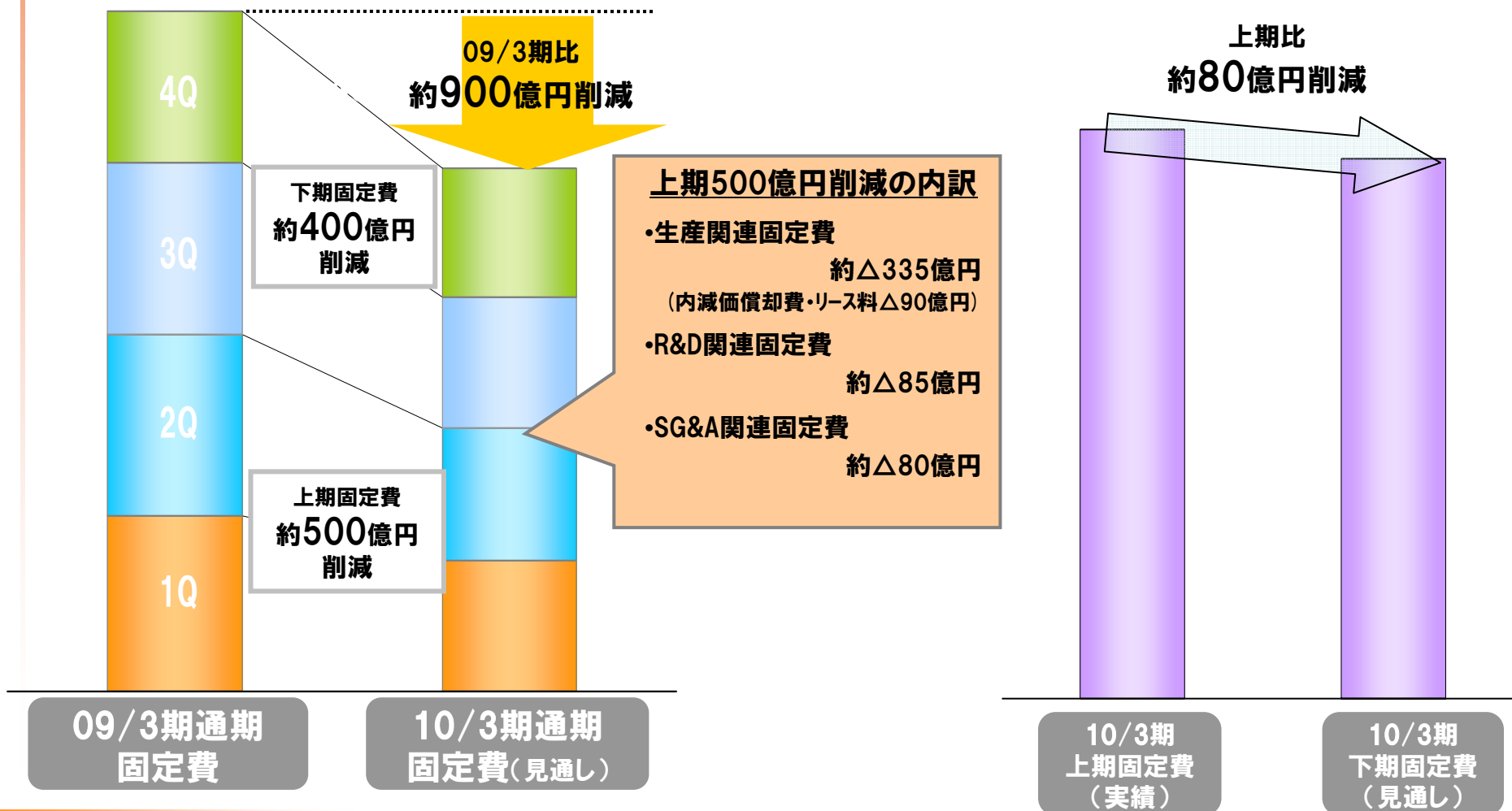
全般的に増収



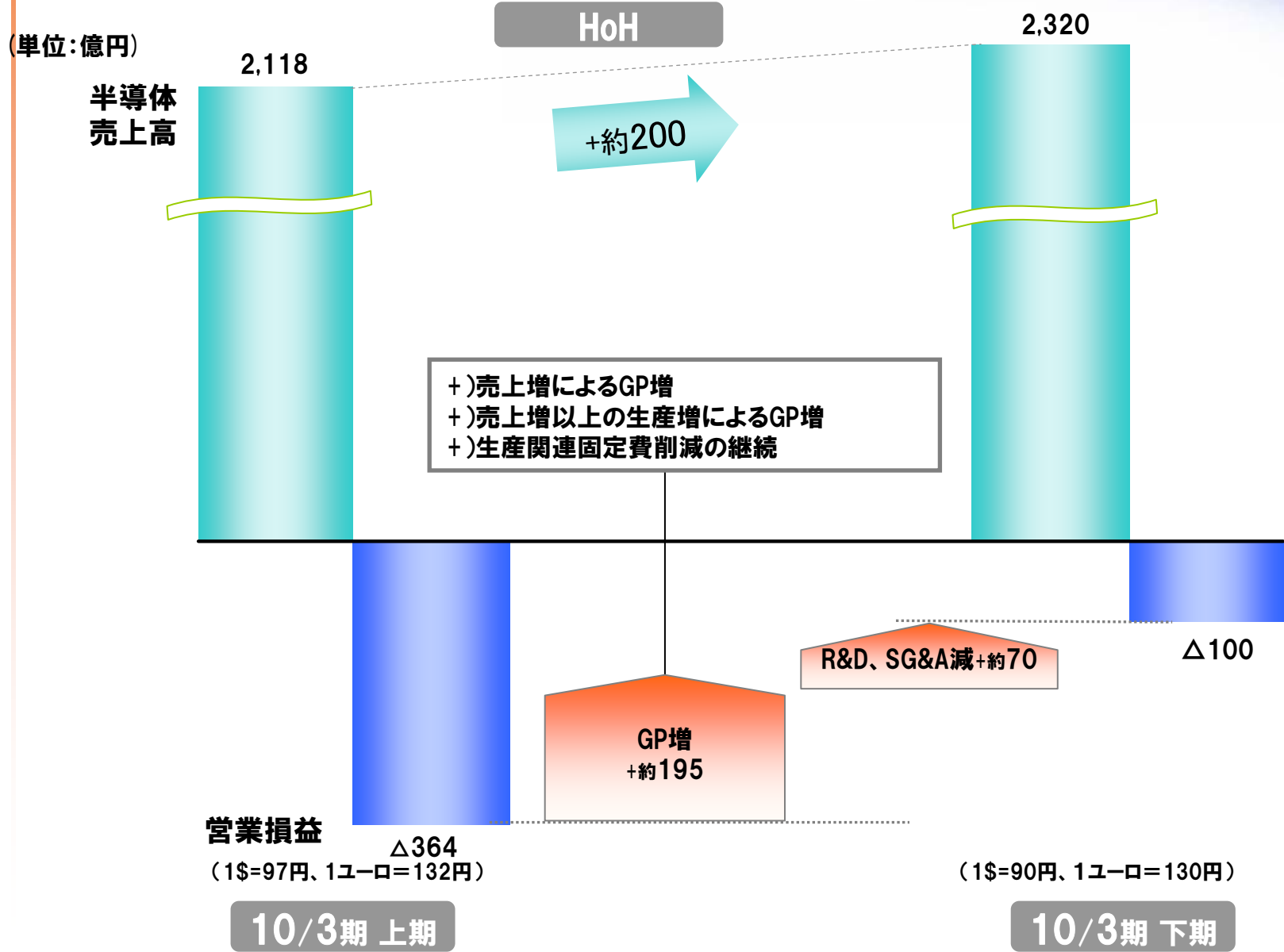
900億円固定費削減の進捗状況

上期は前年比約500億円の削減実現

下期は上期比、更に80億削減、前年比400億円削減



下期営業損益見通しの主な増減要因



下期の取り組み

■ 下期もフリー・キャッシュ・フロー改善を継続

- 下期のたな卸資産は増加する見込みだが、売上増と投資キャッシュ・フロー抑制により収支黒字化を目指す

■ 更なる売上拡大を目指す

- SoC製品の売上拡大により、現状見通し以上の売上を目指す。
- 受注好調なマイコン製品の増産による売上拡大

■ 増産による粗利益率の向上を実現

- 40ナノ製品の早期量産拡大による300ミリラインの稼働増（300ミリは年内に稼働好転見込）
- 需要の強いマイコン・ディスクリートの大增産と市場拡大に向けたたな卸積み増し

■ 固定費削減の遂行

- 引き続き年間固定費削減900億円を必達

■ 構造改革の更なる推進

- 従来の生産ライン統廃合計画を完遂
九州6インチ、米ローズビル6インチを10年3月に閉鎖
- 新規に生産ライン統廃合計画を決定
福岡工場(後工程ライン)を11年9月までに閉鎖し、継続生産品目は大分工場等へ移す
関西5インチラインを12年3月までに閉鎖

先端プロセスでの売上拡大

- 40nm 製品群 デジタルカメラ・DTV・プリンタ向けLSI
- eDRAM-ASIC 画像処理LSI

エコ市場での売上拡大

- スマートグリッド 電力メーター用マイコン、RF半導体
- 省エネ家電 インバータ制御マイコン、LEDドライバ
- ハイブリッドカー モーター・電源制御マイコン、光半導体

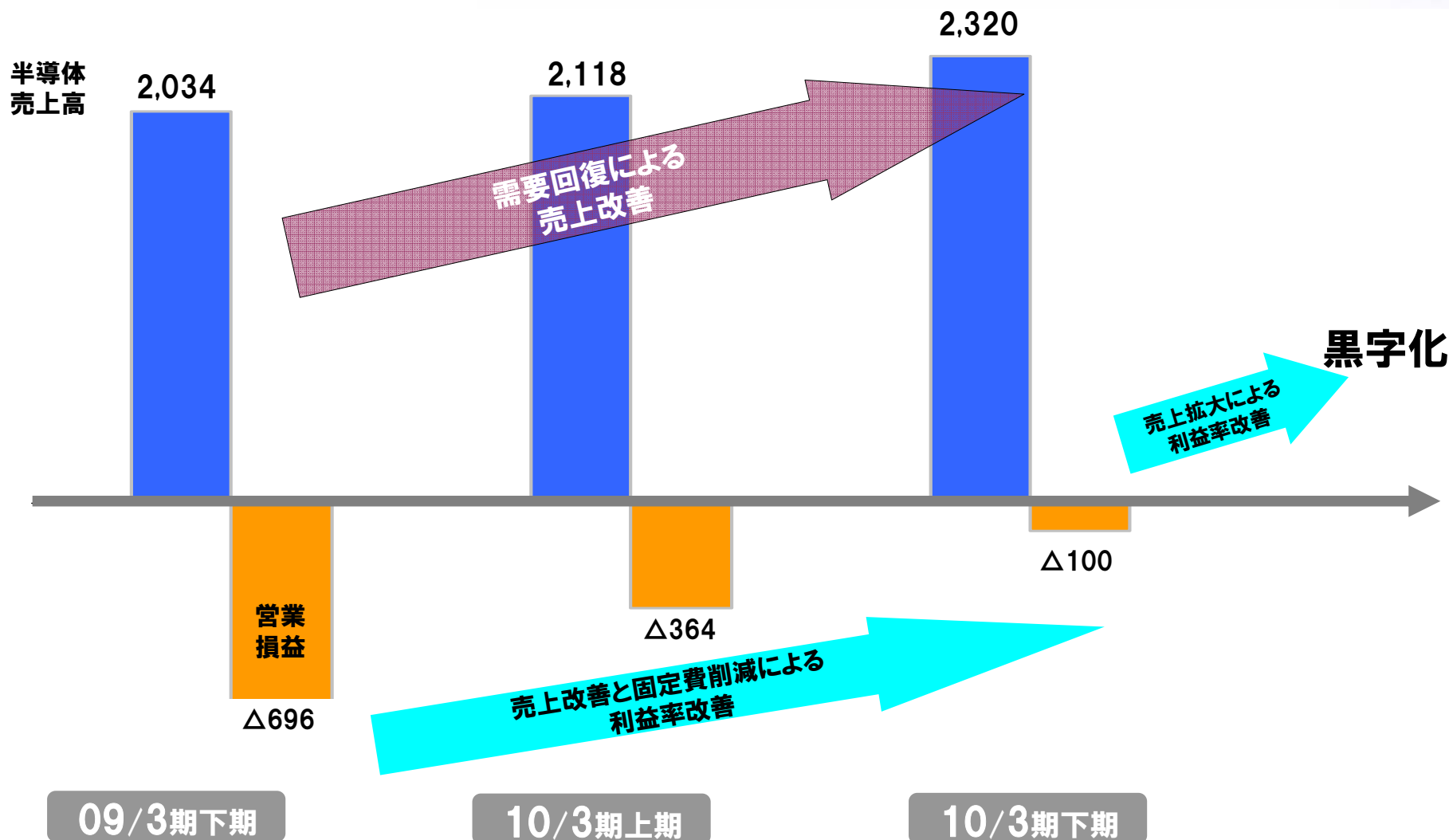
新興市場での売上拡大

- ローコストカー ボディマイコン、ダッシュボードマイコン
- 地デジチューナー 地デジEMMA（バリューTVにも採用）
- 汎用マイコン・ディスクリット

Energy Conscious = Ultimate Low Power™

業績改善に向けて

(億円)



- **マイコンと汎用品の需要が大きく回復。
固定費は計画通り着実に削減。**
- **しかしながら、開発サイクルの谷間による
SoC売上の不振とSoC主力工場の稼働悪化により、
下期および通期の業績見通しを下方修正。**

**下期は、圧倒的ローパワーを実現する最新の
40nm製品と、エコ市場、新興市場向けの
売上拡大で、今後の業績改善を実現。**

NEC

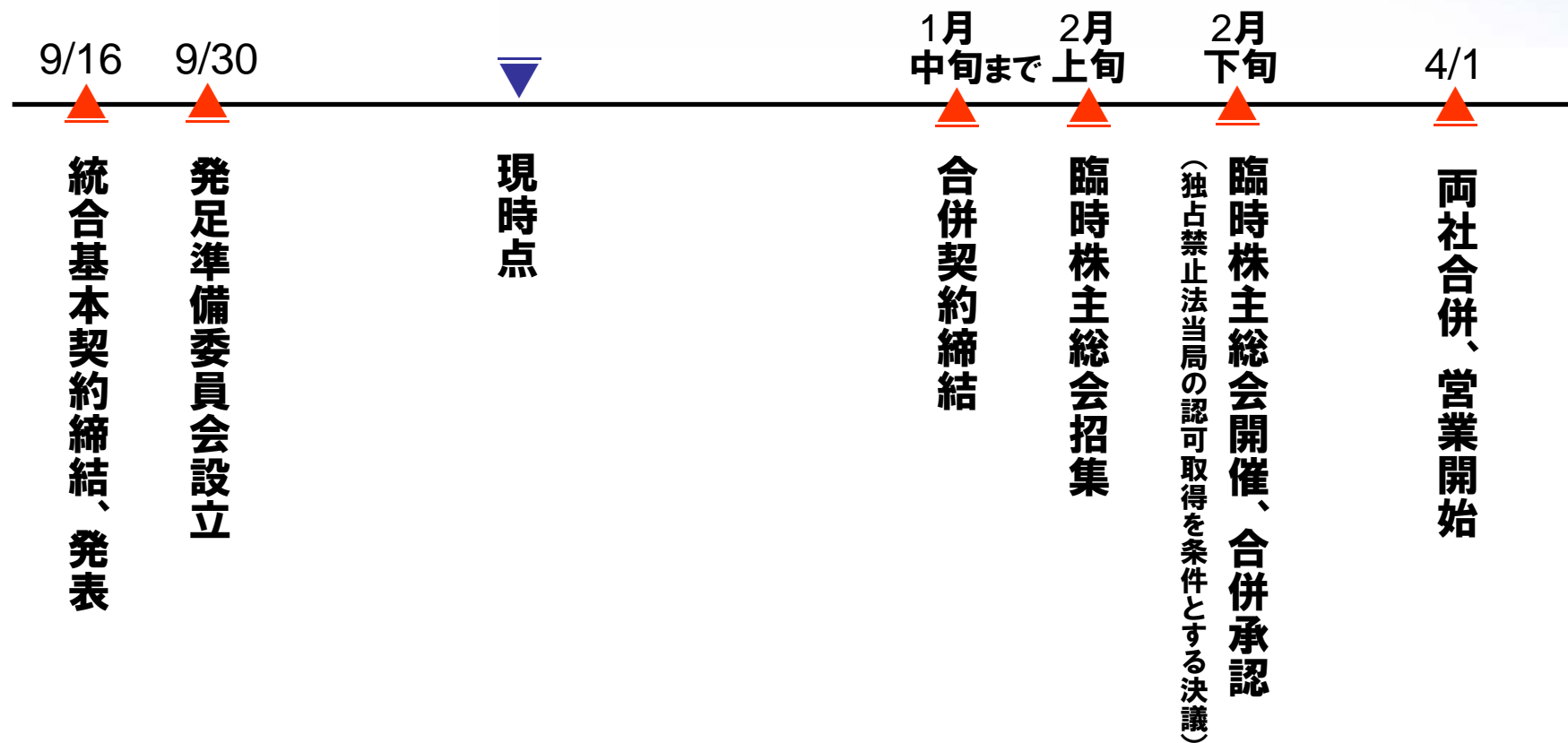
NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

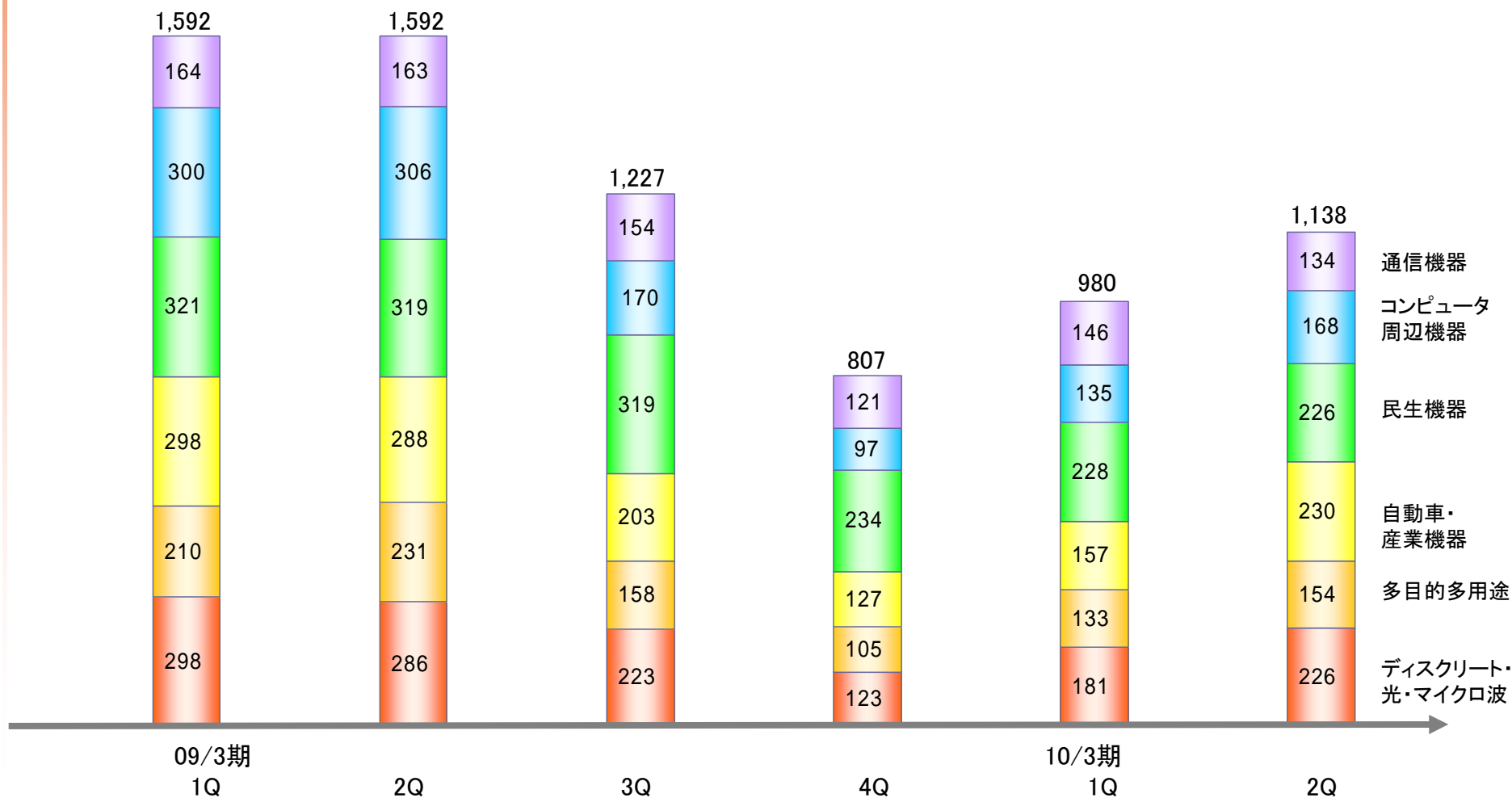
参考：ルネサスとの統合スケジュール

NEC

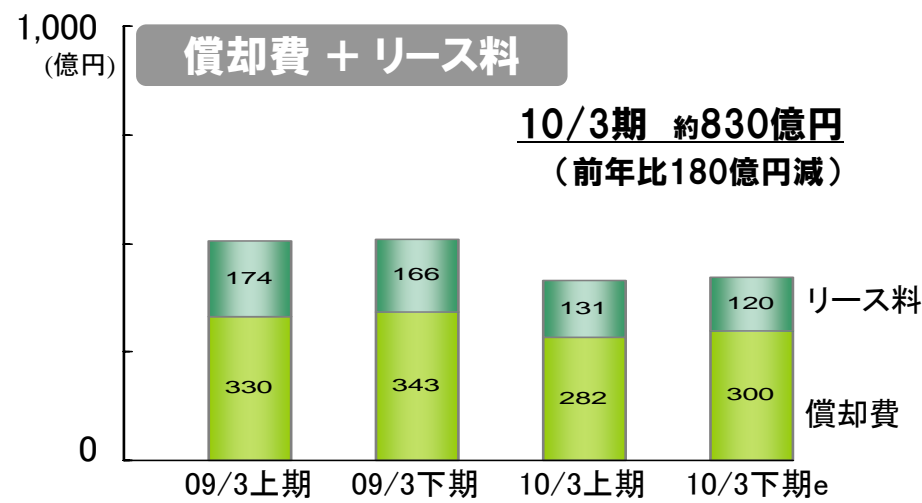
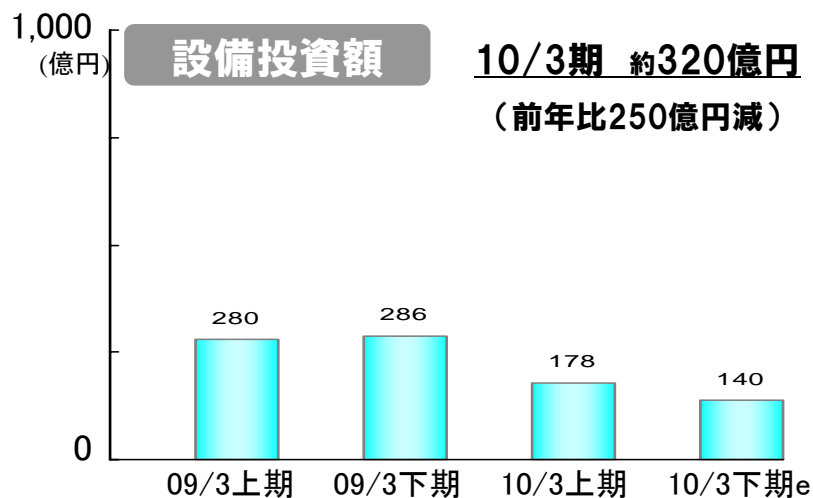
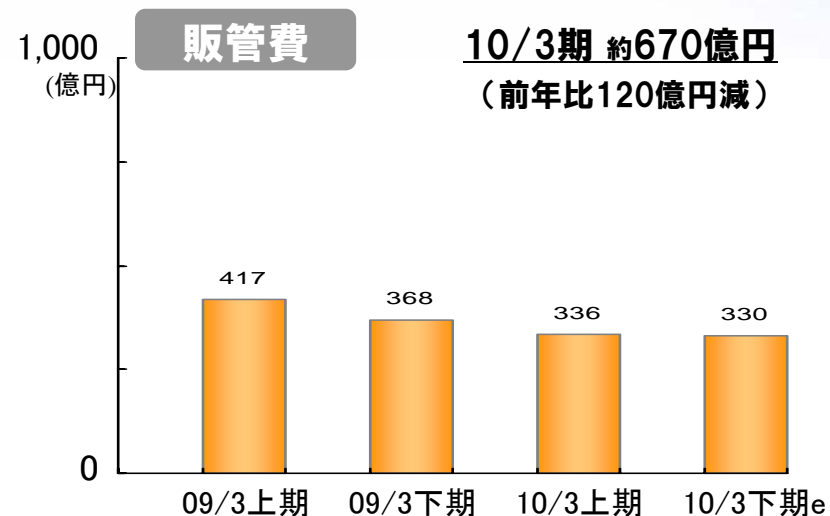
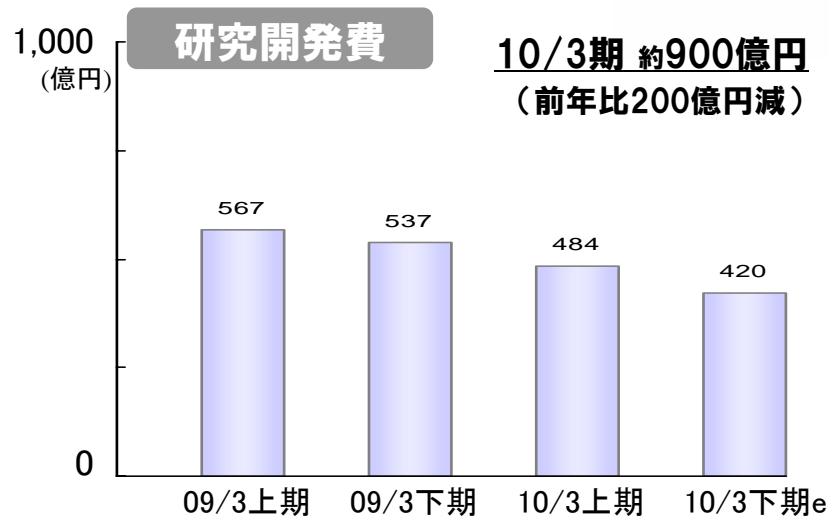


参考：分野別 半導体売上高

(単位:億円)



主な営業費用と設備投資の推移



有形のみ

償却費・リース料は、原価・研究開発費・販売管理費に含まれます
償却費はキャッシュ・フロー表ベース